

● 海外も注目する合理的なシステムを持つ工場

伊藤組木材株式会社

創業は明治時代にまでさかのぼるという「伊藤組木材株式会社」。今から15年前、100年という大きな節目を迎え、その発祥の地である札幌市の苗穂から新港地域に本社ごと移転してきました。

現在は、かつての製材中心の事業から、柱や手すりなどの集材材製造や工業化住宅部材の生産、さらには環境保全に配慮した事業として2年前から自然エネルギーを有効活用する太陽電池パネルの開発にも力を入れています。



太陽電池パネル工場

太陽の光を受けて電力を発生させる「太陽電池モジュール」を開発・生産。住宅の屋根に設置し、環境に優しい電力供給のあり方を提案します。



伊藤貢生さん

製造管理の経験を積み、今年度4月に総務部へ異動となった伊藤さん。製造・営業担当の社員がスムーズに仕事ができるよう、「何でも引き受けます」。自然を感じられる新港の環境には、時に心癒されることも。

同社で働く1400人中1割が事務職を中心にした女性、そのほかは主に工場で働く男性という比率ですが、社員全員が正社員です。それについて、総務部長の伊藤貢生さん(35)は「わが社のようなものづくりをする会社では、本当に人がすべてです。10年も経てば知識も技術も一人前。そういう社員は、会社にとってはまさに財産。その大切な人財を育成し、仕事を続けていける環境をつくるためにも、会社がきちんとした待遇で対応する。その意義はとても大きいと思います」と、人を大切にする会社の姿勢を語ります。

花川南に住む伊藤さんにとって、気になるのは地元と会社の関係。「この地で操業してまだ15年。地元根付くためにも、積極的に石狩での活動に、協力する態勢を整えています」と力を入れます。

道内の木材製造業では珍しい、NPS※を採用していることから、海外からの視察も多い同社。「まずは、そんな会社が石狩にあることを子どもたちにも知ってもらいたい」と、市内の小・中学生の工場見学などを受け入れ、より地域に密着した工場を目指します。

※New Production System(新生産方式)の略。消費者が求めるときに求めるものを必要な数だけ製造し、納品することでムダをなくす生産方式のこと



工業化住宅部材工場

ミサワホーム社の住宅部材を道内全域に供給するための工場。NPS方式を採用して、品質管理やコストダウンの改善を推進しています。

工場データ

場所 新港南2
面積 敷地面積75,289㎡
工場棟26,663㎡

開発が始まってから約30年が経過した今、名実ともに札幌圏の物流拠点として成長を続ける“石狩湾新港地域”。製造業や食糧品、エネルギーの供給施設など多様な企業が操業し、市民生活を支えています。今回ご紹介した企業のほかにも、新港地域にはさまざまな企業があり、そして、多くの市民の皆さんが活躍しています。この春も数多くの方が就職、転勤などで人生の節目を新港地域からスタートさせています。新港地域の発展は、そんな市民一人一人の力によって支えられ、“働く場所”としても十分な魅力と、限りない可能性を秘めています。

石狩湾新港地域データ

開発総面積 3,022ha 操業企業 600社(H19.3月末現在)
石狩湾新港取扱貨物量(H18) 3,448,294t(うち外貨貨物 832,645t※過去最高)
入港船舶数(H18) 1,860隻(うち外航商船375隻)
貿易額 732億1600万円(※過去最高)



開設から1年、平成19年3月31日現在で、同センターを訪れた相談者の方々の就職率が40%を超えています。同様の施設では平均20%といわれる中で高い就職率を誇る理由を、同センターの石狩市就業アドバイザーに聞きました。

じっくり向き合う

「就職率が高い理由はどこにあると思いますか？」

新妻 ここでは、ハローワークなどと違って具体的な就職先のあつせんはしていません。その代わり、一人一人ときちんと向き合い、何をしたいか、また何ができるのかを相談者が冷静に自己分析できるようにお手伝いをしています。その積み重ねが今回の結果につながったのではないかと思います。

「相談時間はどれくらいですか？」

安立 一人20分ほどで、私たちはこのときの内容を毎回、記録に残します。それをもとに、次に来た時にどんな解決法があるか、一緒に模索していきます。



石狩市就業アドバイザーによる相談窓口

毎週月・水・金曜には石狩市就業アドバイザーが在席。予約なしでも気軽に相談に応じてもらえます。

石狩市就業アドバイザー



安立 秀彦さん

都市銀行で支店長を務めた後、道内の大手ホテル経営会社で人事担当。



新妻 浩さん

北海学園大学の元就職部課長。45年間にわたり学生の就職活動を指導。

「だからリピーターの方も多いんですね。」

新妻 そう思います。自分の話を聞いてもらいたいという思いは誰しもありますから。ですから私たちは「こちら安心して相談できる」という雰囲気作りをととても大切にしています。

適切なアドバイス

「具体的には就職活動に向けてどんなアドバイスをされますか？」

安立 履歴書・職務経歴書の書き方、面接の受け方といった、より実践的なアドバイスをします。私もかつて採用する側にいたとき、一度に200通以上の履歴書に目を通したものです。

そのとき、きれいな文字のもの、時系列にきちんと書かれたものにはやはり自然と目が行き、好感を持ちました。中には、折り畳まれた履歴書を開くのが大変だろうと、開いた状態でファイルとして送ってくる方もいました。

「それは大変印象がいいですね。」

安立 とてもいいですよ。もちろん、採用を決定するのはそれだけではありませんが、少なくともそういう履歴書は1次審査をパスする確率が高い。さらに最近では「私はやる気のある人間なので、ぜひ読んでください」と訴えた「添え状」を履歴書に添えるケースが増えています。そういう相手の心をつかむような履歴書・職務経歴書を書けるようにアドバイスしています。

新妻 ここを訪れる相談者のうち6割は40～60代の方です。こういう方たちは就職が初めてではないので、確かに面接にも慣れていきます。しかし、その慣れが反面あだとなることもあります。あいつ、身だしなみ、言葉遣いなどの基本的なことを軽んじて失敗する例が意外に多いので、ここではあ

利用者の声

●アドバイザーの方が身近な先輩のようで、話をしているうちにやる気が起きてきた。また、毎日更新される求人情報がセンターでチェックできるのも良かった。
(40代女性)

●アドバイザーの方が親身になって話を聞いてくれたのが良かった。時には採用する側の目線でアドバイスしてもらえたのも大変参考になった。
(20代男性)

●履歴書や職務経歴書で自己アピールする方法を教えてもらった。今までは簡単に書いていたので、こんなにも違うものかと、とても勉強になった。
(20代男性)

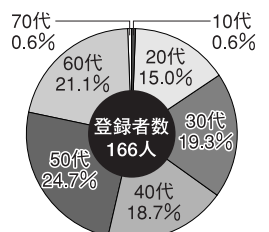
セミナーについての詳しいお知らせは、追って広報でもお知らせします。

「当センター主催の初のセミナーも今年は予定されていますね。」
新妻 はい。一人では相談に来づらいという方にも気軽にのぞいていただくのが目的で、履歴書の書き方や自己分析の重要性、求人情報等情報収集の方法などについてお話ししたいと思います。

安立 職業適性テストなども企画していますので、ぜひ皆さんに足を運んでいただきたいですね。

7月にセミナーも開催予定

相談者の年齢別内訳
(平成18年4月1日～平成19年3月31日)



就職決定者は166人中72人。特に40～60代が半数に近い割合で決まったのが目立ちました。